



若者のパワーを分けてもらう
 神池では、高知工科大学の学生たちが地域おこしに協力している。こいのぼりの揚げ降ろしのほか、大学の学園祭へ一緒に出店したり、湖水祭に参加したり。昨年は、学生たちがピザ釜を神池に手作りしたそう。 「若い人たちが前向きなエネルギーをもらっている。若い発想や外部からの目線など、私たちにはないもの。他にも大柄中の生徒さんと花壇や畑の世話をしたり、若い人との交流は楽しい」と享子さんは微笑む。

続いていく地域おこし
 毎年揚げ続けてきたこいのぼりだが、実はピンチを迎えていた。一時は200匹以上を泳がせていたが、風雨により年々傷み、今年揚げられたのは60匹ほど。この状況を高知新聞が伝えたところ、市内外からこいのぼり約180匹、フラフ約25枚が寄せられたという。 「もう最後になるかと思いつつたけど、これでまた続けられる。本当に感激」と喜身さん。地域を元気にする取り組みが、人々に元気を与えている。

①仲間が集まればいろいろな話に花が咲く
 ②大柄中学生と植えたじゃがいも畑 ③女池の上を泳ぐこいのぼりを眺めながら一服。訪れた人がノートにメッセージを書き残す ④神池のシンボルといえる大日寺の大杉。県の天然記念物に指定されている



神池は男池に女池、高板山不動明王堂の火渡り、大日寺の大杉など見所たくさん

**土佐の豊穰祭『刃物まつり』
 かかしコンテストの次回作にこうご期待！**

写真は、平成24年のかかしコンテストで1等を受賞した神池地区の作品『山里のおきやく(神祭)』。今年のかかしは何にしようか…。そろそろ神池の皆さんも、アイデアを練り始めた頃でしょうか。



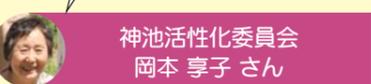
「かかしを作るようになったら、材料を集めたり作業をしたり、その前にはどんなかかしを作るか話し合えないかろう？ したら人が集まる機会になるがよ。昔は、何かあったら集落の人が集まりよった。でも今は、何か企画をして機会を作らんと、人が集まるのがなくなってきたかね」と

ど、続けてこそ得られることもある。達成感もあるし、今年は何をやるかと考える楽しみもある」
 苦勞してかかしを作った後の打ち上げは、焼き肉をしたり、愛媛へ日帰り旅行に行ったり。楽しむこともまた、継続の秘訣のようだ。

人が集まる機会をつくる
 こいのぼりと並び、神池の活動の代名詞と言えるのが、かかしだ。
 神池を歩くと、道の脇や畑の隅にたたくむかかしに出合う。遠目から見ると本物の人間のようで、思わず声を掛けてしまいたいそう。かかしを作り始めたのは10年前。土佐山田町で開催されている『刃物まつり』の、かかしコンテストに毎年出品しており、平成24年には1等を受賞した。毎年レベルの高いかかしを送り出し、これを目当てに祭りを訪れる人もいるほどだ。
 「かかしを作るとなったら、材料を集めたり作業をしたり、その前にはどんなかかしを作るか話し合えないかろう？ したら人が集まる機会になるがよ。昔は、何かあったら集落の人が集まりよった。でも今は、何か企画をして機会を作らんと、人が集まるのがなくなってきたかね」と

ケース 02 神池活性化委員会
 物部町神池

神池は、グネグネと山道を登った先にパツと空が開ける面白い集落。そこに大きな池があって、かかしやらフラフやらがあるもんやき、みんな驚かあね。



活性化委員会の岡本記征さん。「人が集まれば話をするし元気になる。地域は人が元氣やないと」
 顔を合わせて、他愛もない話に花が咲けば、その内に地域をおこすアイデアも口をついて出るのだろう。「続けていくのは大変やけど」

神池に学ぶ
地域おこしのツボ

- 1 訪れてもらうことがモチベーション。
 人を迎え入れることが、地域をきれいに保つ動機に。
- 2 人が集まるのが大事。
 楽しく集える機会づくりが、地域おこしの第一歩。
- 3 学生たちの力を借りよう。
 若い人たちの存在は、地域に新しい発想をもたらす。